

P-B-7

恥骨結合難開への骨盤矯正ベルトの適用

Application of the Pelvic Double Support Belt to the “Symphysial Separation”

○土屋 八大¹⁾, 高橋 世津子¹⁾, 土屋 義弘¹⁾, 片岡 美代子¹⁾, 和田 晃²⁾

1) 株式会社ユー, 2) National University Of Singapore

The “Public Symphysis” is a kind of the cartilages. Effects of the Pelvic Double Support Belt(PacifiChem 2010, Honolulu, Hawaii) to the “Symphysial Separation” which induced by the damaged each pubis, were discussed in this study.

Subjects (31-years old and 35-years old) with the “Symphysial Separation” wore the belt over three months, to attenuate the pain and straighten her posture. Three months later, the 1.5T MRI 64-Lanes Multi-slice CT indicated the under 1mm spaces of the pubis as normal, in any subjects.

【目的】

「恥骨結合難開」とは、妊娠後期および分娩時に恥骨結合軟骨が弛緩する際、その程度が過渡であったり、あるいは恥骨軟骨が損傷を起こしている状態であり、自発痛や著明な圧痛を示す。歩行不能の場合もある。骨盤は妊娠により生理的に弛緩状態となるが、弛緩の程度がはなはだしい時や巨大児の出産や狭骨盤の産婦に発症しやすい。

今回、「恥骨結合難開」の発症が骨盤の歪みに起因することに着目し、多段編みを特徴とする骨盤矯正ベルト (PAT No.5913410,USA、PAT No.2134902, JAPAN、PAT No.3530787, JAPAN、PAT No.3542566, JAPAN、PAT No.3974690, JAPAN) を被験者へ着用させ、その作用を検討することを目的とした。

【方法】

被験者は、「恥骨結合難開」を発症した出産後1年を超える2名の女性（31歳：被験者Aおよび35歳：被験者B）とした。いずれの被験者も、多段編み骨盤矯正ベルトをその推奨方法（PAT No.5913410 PAT No.2134902 PAT No.3530787 PAT No.3542566 PAT No.3974690）に従い、装着した。尚、いずれの被験者も、入浴を除く全ての時間において当該ベルトを装着した。

レントゲン撮影は1.5T MRI 64-Lanes Multi-slice CTにより行った。

【結果】

本研究の骨盤矯正ベルトの約3ヶ月の着用により、恥骨の間隔は、被験者Aにおいては8mmから0.2mmへ、被験者Bにおいては6mmから1mmとなった。いずれの被験者においても、本研究のベルトの装着による皮膚炎症またはかゆみはみられなかった。

【結論】

多段編み骨盤矯正ベルトの適切な装着による「恥骨結合難開」への有効性が示唆された。